

藤並の森

vol.91
2020.11

リレー随筆

大塚楠緒子という存在

石崎等



大塚楠緒子

若くして竹柏会に入門し、佐佐木信綱に師事して国文学や短歌の指導を受け、「心の華(花)」を舞台に短歌や詩を発表していたが、やがて小説に手を染め、樋口一葉の亡きあと、「ポスト一葉」として期待を一身に集めた。

その後、夏目漱石と師弟関係を結び小説の指導を受けた。楠緒子と結婚した大塚(旧姓小屋)保治が漱石と親友だった縁による。そういう意味では、当代一流の二人の文学者から薰陶を受けるという幸運に恵まれたわけだ。代表作として長篇『空薫』(続篇『そら炷』)や短篇『客間』があり、生前には短篇集『晴小袖』、長篇『露』が刊行された。楠緒子はメディアの要請によって表現世界を拡げていったが、その本

今年は大塚楠緒子の歿後一二〇年にあたる。一〇年前の記念すべきときも、たしか無風状態だったよう記憶している。近代の文学史に精通している人でも、「お百度詣」の詩人くらいの認識ではないだろうか。

ひとあし踏みて夫思ひ／ふたあし國を思へども／三足ふたたび夫思ふ／女心に咎ありや／朝日に匂ふ日の本の／國は世界に只一つ／妻と呼ばれて契りてし／人は此世に只ひとり／かくて御国と我夫と／いづれ重しととはれなば／たゞ答へずに泣かんのみ／お百度詣あ、咎ありや(「お百度詣」)

日露戦争の時代、反戦的な気分を盛り込んだこの詩が、与謝野晶子の「君死にたまふことなかれ」と並んで一世を風靡したことほど有名である。

楠緒子は明治八(一八七五)年に東京の麹町に生まれた。法曹界で活躍した父親の大塚正男が土佐の出身であったことから、高知県ゆかりの文学者として知られている。

若くして竹柏会に入門し、佐佐木信綱に師事して国文学や短歌の指導を受け、「心の華(花)」を舞台に短歌や詩を発表していたが、やがて小説に手を染め、樋口一葉の亡きあと、「ポスト一葉」として期待を一身に集めた。

その後、夏目漱石と師弟関係を結び小説の指導を受けた。楠緒子と結婚した大塚(旧姓小屋)保治が漱石と親友だった縁による。そういう意味では、当代一流の二人の文学者から薰陶を受けるという幸運に恵まれたわけだ。代表作として長篇『空薫』(続篇『そら炷』)や短篇『客間』があり、生前には短篇集『晴小袖』、長篇『露』が刊行された。楠緒子はメディアの要請によって表現世界を拡げていったが、その本

質は短歌にこそあった。

語れども心汲まれず聴く人のわき得ぬやはたわれか狂へる
くろがねの見えぬ鎖につながれて囚はる、もの女と呼ばれる
あやもなき一筋みちを傍目ふらずま
しぶし世のつらさ忘る、眠かなこ
のま、息の耐えよとし思ふ
海べりの家ゐにこもる籠り妻たゞ
身一つになづみはてつ、
かくてわが恋は生きたりなかく
に契らざりしを今は悔まぬ

一見華やかな上流夫人の外見とはうらはらに、人間関係に苦しみ、世間にはびこる風習やわずらわしい現実を凝視したこれらの歌から、主婦と作家をかねた先駆者としての姿が浮かび上がってくる。

(立教大学名誉教授)

「百花繚乱 ～高知の女性文学史～」展への誘い

令和3(2021)年1月16日(土)
～3月21日(日)

近代日本の女性作家

思想や文学をはじめ、西欧の様々な世界観が日本に導入された近代以降。小説の興隆と女性作家の登場、フェミニズム意識の高まりという情勢を背景にクローズアップされてきた女性文学ですが、大正時代以降、高知からも、個性ある女性作家たちが輩出されています。

高知の近代は、自由民権運動からといわれるよう、女性も例外ではなく、明治11年、女戸主の参政権を求めた楠瀬喜多の存在が挙げられます。しかし、明治時代に女性に参政権を求めていた植木枝盛の『東洋の婦女』など、男性作家によるものであり、高知県出身の女性作家の活躍は、大正時代以降となります。

しかし、中央文壇に目を向けると、閨秀作家と言われる高知ゆかりの女性作家が、その頭角を表しています。

明治15年には、坂崎紫瀬、宮崎夢柳、土佐出身の神奈川県令、中島信行といった自由民権運動家の感化をうけた、中島湘烟(岸田俊子)が『女権論』を展開。信行らの日本立憲政党の演説会でも「婦女の道」の演題で講演し、注目を浴びています。湘烟は、京都生まれ。宮中にいて皇后(後の昭憲皇太后)に漢学を進講した、フエリス英和女子学校の名誉教授という才媛ですが、夫信行を支え、自由民権家として行動を共にしています。

作品には、小説「一沈一浮」「山間の名花」、隨筆「大磯だより」、翻案「善惡の岐」、漢詩、新聞への論説などがあります。

桶口一葉、与謝野晶子の後に続いた、大塚楠緒子の厭戦詩「お百度詣」は、晶子の「君死にたまふこと勿れ」とともにジャーナリズムを取り上げられ、注目を浴びました。楠緒子は、明治から大正にかけて活躍した女性作家であり、高知

出身の両親の間に長女として誕生、その美貌に漱石が心を寄せたことでも知られる人物です。漱石の『虞美人草』と楠緒子の『空薰』を読み比べると解るように、その作風からは、漱石の影響が見受けられます。他に小説、翻訳、意訳、戯曲などを収録した『晴小袖』が出版されています。

その後、平塚らいでうの女性文芸誌「青鞆」が創刊されますが、その中には、田村俊子の「生血」も掲載されており、女性の新時代が到来することになります。

俊子は、東京市浅草区藏前町の米穀商の長女として誕生。女優や作家として活躍。高知出身の夫であり、俳人田村松魚の勧めで『あきらめ』を発表し文壇へデビューしました。

俊子の作品の特徴は、男女の相克を正面からエキセントリックに描いた点にあり、男女のすさまじいまでの自我のぶつかり合いを、支配―被支配の二項対立という視点で見つめながらも、それだけで割り切ることができない問題を、女性のもつ身体感覚に立脚して、丹念に描いています。

このように見てみると、田村俊子においては、収入源としての執筆活動や女優業が見えてきますが、大塚楠緒子や中島湘烟といった女性たちは、上流階級の家庭婦人として、安定した経済環境の中での執筆活動であり、高知

顕彰作家を振り返る

大正から昭和にかけて活躍した北見志保子は、歌曲「平城山」で知られています。収入源とともに、流派や結社を超えて「女人短歌会」を結成。また、定期詩を取り入れた、独自の歌風を打ち立て、後進の育成にも力を尽しました。作品には、寂しさや哀



北見志保子の書簡

初公開

正義派——田宮虎彦の文学

高橋 正

田宮虎彦（一九二一—一九八八）は父が外国航路の船員だったので各地を転々。高

知の香美小、神戸、中、三高を経て昭和二年、東大国文科卒。新聞記者の頃、無届け集会に出て検挙されたこともある。

作家として認められたのは、歴史小説「霧の中」（昭二三）によって。明治維新の折、薩長軍に攻められ、父と兄は戦死、母と姉は凌辱・惨殺された会津藩士の遺児、中山莊十郎が主人公。

莊十郎は親の仇である薩長藩閥政府への激しい復讐心を内に秘めながら、大道芸人、軍夫、守衛など、明治・大正・昭和の三代を懸命に生き抜くも、太平洋戦争敗戦直後、異国の陋巷に斃死する。

田宮は「あつたがままの事実から、真実を探り出すこと」が、歴史小説家の使命ではと説く。この主張は「霧の中」に鮮烈に形象化されている。いま一つ、戊辰戦争から太平洋戦争で破滅するまでの三代を懸命に生き抜くも、太平洋戦争敗戦直後、異国の陋巷に斃死する。

（高知高専名誉教授）



足摺岬の灯台横にある田宮の文学碑。
名作『足摺岬』の一節、「砕け散る荒波の飛沫
云々が刻まれている。

資料受贈報告

（令和2年8月・9月）敬称略

寄贈資料から

『有る程の菊 夏目漱石と大塚楠緒子』

石崎 等著 未知谷刊

令和2（2020）年10月

四六判 432頁

石崎 等氏寄贈

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

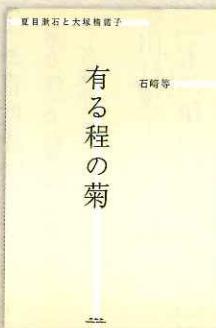
編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼藤原義一「戦争に反対した人々

藤原義一著刊他



大塚楠緒子「明治8（1875）～明治43（1910）」は小説家、歌人、詩人。樋口一葉に次ぐ作家と期待されながら道半ばで病に倒れ、再起かなはず早世。享年36歳でした。

有る程の菊
抛げ入れよ棺の中

楠緒子の夫・保治の友人で、小説の師であつた夏目漱石は、楠緒子の訃報に接し、右の句を手向けました。

今回ご紹介する『有る程の菊 夏目漱石と大塚楠緒子』の書名もこの句からとられています。本書を見渡して目を引くのは、巻末に列記された130点を超える参考文献の数々。書簡や周辺人物の回想記等を読み解きながら、漱石と楠緒子の関係の意味を問い合わせに及ぼした影響について考察がなされています。その過程で、楠緒子の小説や短歌はもとより、同時代の作品に対する批評や「出産」という題材に対する言及が掘り起こされている点にも注目されます。

（学芸課／小松路代）

▼中脇初枝・「神の島のこどもたち
中脇初枝著 講談社刊」

▼窮理舎・「珈琲哲學序説
吉村冬彦著 穷理舎刊他」

▼橋田憲明・「俳句界 26巻10号
寺田敬子編 文學の森刊」

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

70周年記念 日本現代詩選

編集委員会編 2020

▼吉岡国弘「詩集ふるさとの晩春

吉岡さゆ子著 吉岡国弘刊他

▼森 武司「昭和行進曲」

▼小松弘愛「日本詩人クラブ」

</div

朗読の会、再始動！

学芸課
より



文学館の朗読の会は、第3土曜日に開催され、恒例の行事として長い間続けられています。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響と工事のための休館によつて、昨年12月の「馬場孤蝶と明治文壇の人々」を最後に、これまでにない長い期間お休みとなつており、皆様にはご迷惑をおかけしております。

その間、朗読を聴けないことを残念がるお客様のお声を多々いただいておりましたが、体制を整え、1年ぶりとなる令和3年1月16日(土)にようやく朗読の会再始動となります。

現在、1月の朗読の会担当の朗読カルチャーサポーターが、作品を選び、練習を始めています。川端康成や芥川龍之介、三浦哲郎など、多くの方がご存じの男性作家が書いた作品を読む予定となつておりますので、楽しみにお待ちください。

再開後も従来通り予約不要、参加費無料となつております。ただし新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、検温や換気の実施、連絡先の記入、速やかな退室など、皆様のご協力いただく述べ多くなります。

安全に朗読を楽しんでいただきために、どうぞご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

(学芸課／川島禎子)

※新型コロナウイルスの感染状況によっては、朗読の会中止となる場合もございます。ご了承ください。

文学マイスター講座 レポート

高知県立文学館では
今年度も文学マイスター
講座を開催しています
(開催期間：令和3年3
月まで)。

今年度は新型コロナ

ウイルス感染拡大の影響もあり、初回と第2回を休回としたほか、定員を通常の100名から40名程度に減らし、

座席の間隔を空ける、資料の事前設置、講義の合間での換気など、感染防止対策をとりながら開催しました。また、講師・受講生のみなさんにもマスクの着用や私語を控えていただきました。

普段とは違つた環境での実施となりましたが、無事に前期を終えることができました。

後期は令和3年1月から開催します。1月は、公益財団法人野球殿堂博物館学芸員の井上裕太先生をお迎えし、清岡卓行をはじめとする野球に造詣の深かつた作家を中心につづく3月は高知県立歴史民俗資料館学芸員石畠匡紀先生をお迎えし、貴族・武士や土佐の江戸期の庶民たちが親しんだスポーツ・武芸に焦点を当てた講義いただきます。

これから本格的に寒くなり、新型コロナウイルスに加え、インフルエンザの流行も心配されます。当講座も、引き続きコロナウイルス感染拡大防止



講義のようす

対策をとりながら開催して
いきたいと思います。年度途
中からの受講も可能ですの
で、ご興味のある方は、「文学マ
イスター講座係」までお問い合わせください。(要事前申込
込み／受講料無料)

また、2階企画「コーナーでは引き続
き「スポーツと文学」展を開催してい
ます。資料を一部入れ替えてご紹介し
ますので、こちらもお見逃しなく！
(学芸課／野々村昭美)

後期予定

第8回 令和3年3月27日

「土佐の江戸期・
庶民たちのスポーツ」(仮)
講師：石畠 匡基先生

(高知県立歴史民俗資料館学芸員)

第6回 令和3年1月23日

「野球の歴史と清岡卓行」
講師：井上 裕太先生
(公益財団法人野球殿堂博物館学芸員)

第7回 令和3年2月27日

「貴族・武士のスポーツ」(仮)
講師：石畠 匡基先生
(高知県立歴史民俗資料館学芸員)

※新型コロナウイルス感染状況により、
講師・内容が変更となる場合があります。

2

館内おはなしキャラバンのご案内



令和2年7月4日開催
「ウルトラマンやかいじゅうのおはなし」の様子

文学館では、毎月第1土曜日の午後2時から、土佐民話紙芝居の実演や絵本の読み聞かせによる「おはなしキャラバン」を開催しています。月ごとにテーマを変えて、季節の行事にまつわる紙芝居を取り上げたり、開催中の企画展とラボレーションして展覧会に合わせた絵本を紹介するなど、小さなお子様から小学生を中心に大人の方にも楽しんでいただけるよう工夫しています。

どの回も、活躍するのは当館カルチャーサポーターです。皆さん、その作品が持つ魅力を伝えるため、紙芝居や絵本を何度も繰り返し読み込み入念な準備をして本番に臨れます。そして、それぞれの声に乗せて、紙芝居や絵本のストーリーを表情豊かに伝えてくれるのです。そうした読み手の声を通して耳から聞くお話は、自分が目で追って読むときはまた違った味わいがあり、何とも心地よく心に響いてきます。

毎月参加してくださる親子連れのお客様やグループで来てくださるお客様、土佐民話紙芝居を懐かしんでくださるお客様など様々で、紙芝居も絵本もその楽しみ方や魅力は世代をはるかに超えていくものであるということを毎回感じています。

文学館が休館のため、10月から12月のおはなしキャラバンはお休みとなっていますが、来年(令和3年)1月2日の再オープンの

日には午後2時から開催する予定

です。お正月にちなんだお話を紹介できるよう準備をしていますので、ぜひ文学館にお越しください。

※最新情報は文学館のホームページをご確認ください。

(学芸課／道脇夕加)

3

子どものぶんがく室につみきツリーが登場！

当館1階の「子どものがんがく室」は、もつと子どもたちに親しんでもらえる場所を目指し、四万十産ひのきの小さなソファーや、ログハウス風小部屋などを設え、ワクワクする空間へと生まれ変わりました。

そして8月、「子どものがんがく室」のシンボルとなる、つみきツリーが完成しました。高さ約250cm、直径約60cmの杉材でできた大きなツリーに、上から下までたっぷりのつみきがつまっています。

ツリー本体は、地元産の杉檜材を使い、自然木の良さを最大限生かした家具づくりで全国的に知られる、大川村の協同組合木星会さんに作っていただきました。

夏休みの間、当館に遊びに来てくれた子どもたちは、天井まで届く大きなツリーに目を輝かせ、たくさんのつみきを使って夢中で遊んでくれていました。

「子どものがんがく室」が、土佐民話や絵本に親しみ、つみきを通して自由な想像力をはぐくむ場となればと願っています。

(学芸課／岡本美和)



べの肌ざわりとひのきの香りに心が癒されます。

このツリーに使用したつみきはなんと約1600個。落下防止のため、上段部分は膠(にかわ)で接着していますが、下

から4段目まではつみきがはずせ、さらにツリーの横にはつみきがぎゅうぎゅうに詰まつた引き出しや木箱を置いてありますので、たっぷりのつみきで自由に遊んでいただけます。

使い方を輝かせ、たくさんのがんがく室につみきをつみきで遊んでください。

つみきがぴったりと隙間なく詰められるように緻密な計算と技術で仕上げてください、「つみきでできた木がほしい！」という希望をみごとに叶えてくれました。常設

出来るつみきツリーは全国的にないようになりますが、細部まで気を配つて作つてくださいました。そして、つみきがぴつたりと隙間なく詰められるように緻密な計算と技術で仕上げてください、「つみきでできた木がほしい！」という希望をみごとに叶えてくれました。常設

出来るつみきツリーは高知市の井筒屋さんの製品で、四万十ひのき。すべて



4



枯葉となつた薦が
覆い、お客様と年末
ると文学館の壁を

例年、12月にな

の挨拶を交わすに

つれ、徐々に年がゆくのを実感します。
皆様にお目にかかることのないこの休

館期間は受付スタッフにとって、まる
で時が止まっているようにも思えます
が、1月2日(土)の開館に向けての準備
期間となっています。

「百花繚乱・高知の女性文学史」展
(1月16日～)に合わせて新しい商品を
ご用意するとともに、休館中でもお樂
しみ頂けるよう、ミュージアムショップ
では通信販売を承っています。

顕彰作家についてまとめた「常設展
示図録 高知の文学」は人気商品です。
他にもオリジナルの一筆箋、これまで
での企画展で取り上げた個々の作家
の図録など、文学館でしか手に入らな
い商品を多数ご用意しています。ホー
ムページにて詳細をご覧いただけます
ので、お気軽にお問合せ下さい。

(総務事業課／大原良子)



通信販売商品（一例）

館長エッセイ



私の女性文学散歩

の強さと誇りとしたたかさ
の体現だ。

空は青く、高く澄み渡った秋。
さらりとした空気に誘われ、高知城の周りを歩くと、
観光客をはじめ、修学旅行とおぼしき賑やかな生徒達、満面の笑みを浮かべ写
眞に納まる花嫁も見かけるようになつた。

高知城に上がり、山内千代の像の前でしばし足を止める。持参金で名馬を買ひそれが後の夫の立身出世につながつた「内助の功」を讃えら
れている。興味深いことに、司馬遼太郎は「功名が辻」の中で、千代のこの行動は夫を世間に売り出すすこぶる賢いイメージ戦略だと語っている。

眼下の堀を見る。野中兼山邸跡がある。大原富枝は「婉という女」で、老いと孤独と貧困の中に置かれた婉に、強烈な自意識をもつて、今こそ生身の女として前を向き、自分的人生をただ生きてみたいと述べさせる。土佐の女性

第4回お城下文化の日

レポート



土佐民話紙芝居の様子

当館では、1月半ばから、「百花繚乱・高知の女性文学史」展が開催される。
女性が、自由に、そして自立して生きることを良しとはされない時代に、多くの女性作家達はどんな思いを作品に託したのだろうか。私にとって、さらに多くの女性の生き方に触れるもう一つの女性文学散歩の場となるだろう。

11月15日、高く澄み切った秋空の下、たくさんのお客様にお越しいただき、キラキラと輝く万華鏡にうつとりする親子や、お殿様や刀のお話の紙芝居を楽しんでいられる方々でにぎわいました。また、お城下文化手帳をお持ちの方へ、文学館オリジナルポストカードをプレゼントする企画も、大変ご好評をいただきました。今年はコロナ禍により、カルチャーサポーターの活動が制限される中、このイベントは屋外での活動であつたため密になる心配がなく、多くのサポート者が活躍できる場となりました。

お客様と触れ合う機会のない休館中の当館にとつて、多くの方々に文学館の催しに親しんでいただける貴重な1日となりました。

(学芸課／大西あゆみ)

お知らせ



高知県立文学館 カレンダー

高知県立文学館は12月26日(土)まで 改修工事のため臨時休館

※令和3年1月2日(土)より開館いたします。



企画展案内

「百花繚乱 ～高知の女性文学史～」展

会期 令和3(2021)年1月16日(土)～3月21日(日)
 会場 高知県立文学館 2階企画展示室
 開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)
 観覧料 一般400円(常設展含む)、高知県・高知市長寿手帳等お持ちの方・高校生以下は無料

展覧会の紹介をしています! 詳しくは2・3ページ目をご覧ください。

プレ企画

「お正月ご来館 プレゼント」

新年1月2日(土)、3日(日)、4日(月)にご入館いただいたお客様各日先着30名様に、企画展のプレ企画として、素敵なオリジナルグッズをプレゼントします。新しい年に、ぜひ文学館にお越しください。



関連企画のご案内

講演会

高知出身の作家 藤原絢沙子さんの講演会です。
 藤原さんとともに、素敵な時間を過ごしませんか。
 日時 2月14日(日)午後2:00～3:30
 講師 藤原絢沙子さん(作家)
 演題 「時代小説・歴史小説の魅力」
 場所 高知県立文学館1階ホール
 参加費 当日観覧券が必要となります。
 申込 電話または文学館受付にて事前申し込み。(定員50名)
 (講演会の後、サイン会を行います。)

クイズ

展示を見ながら、クイズに答えてみましょう。
 正解数に応じて素敵なプレゼントを差し上げます!

日時 2月11日(木・祝)、23日(火・祝)、
 3月20日(土・祝)
 午前10:00～午後4:00
 場所 高知県立文学館
 参加費 当日観覧券が必要となります。
 申込 不要(当日、直接会場へお越しください。)

木洩れ日コンサート

高知ゆかりの女性文学者が愛した音楽や創作した音楽をNPO法人こうち音の文化振興会会員の演奏でお楽しみください。

日時 3月14日(日)午後2:00～
 場所 文学館前 藤並の森
 (雨天の場合は、高知県立文学館1階ホール)
 参加費 無料
 申込 不要(当日、直接会場へお越しください)

ワークショップ

和紙を使って、素敵なブーケを作りませんか?
 日時 2月7日(日)
 1回目／午前10:00～12:00
 2回目／午後2:00～4:00
 場所 高知県立文学館1階ホール
 参加費 当日観覧券が必要となります。
 申込 電話または文学館受付にて事前申し込み。(各回10名)

朗読の会「高知の女性文学を読む」

文学館カルチャーサポーターによる、高知の女性作家が描いた作品を中心とした朗読です。

日時 2月20日(土)午後2:00～3:30
 (開場午後1:30～)
 場所 高知県立文学館1階ホール
 参加費 無料
 申込 不要(当日、直接会場へお越しください)

展示解説

展覧会担当者による展示解説です。

日時 毎週土曜日 午後1:30～(30分程度)
 場所 高知県立文学館2階 企画展示室
 参加費 当日観覧券が必要となります。
 申込 不要(当日、直接会場へお越しください)

※その他、ファイナルイベントなどを予定しています。
 ※新型コロナウィルス感染拡大防止のため、展示および関連イベントは中止・内容を変更する場合があります。

高知県立文学館で開催する企画展・その他事業は職員全員で消毒・清掃を行い、安心・安全に利用いただけるよう感染予防・拡大防止対策を行っております。

みなさまのご協力をお願いいたします

- 体調不良の時には来館をご遠慮ください。
- 入口やトイレに消毒用アルコールを設置しておりますのでご利用ください。
- 咳エチケットや、マスクの着用、人が多い場所では会話を控える等のご協力をお願いします。

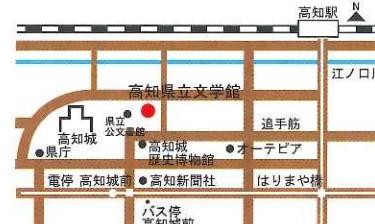
- 観覧の際は、ほかのお客様と十分な距離をとってご観覧ください。
- 展覧会混雑時には入館をお待ちいただく場合があります。
- 職員はマスクをして対応いたします。

お客様に安全に観覧いただくため、ご不便をおかけしますが、ご理解ご協力下さいますようお願い申し上げます。

利用案内

開館時間 午前9時～午後5時(入館は、午後4時半まで)
 休館日 年末年始(12月27日～1月1日)を除き、無休。
 観覧料 一般370円 企画展はそれぞれ異なります。
 20名以上の団体は2割引。高校生以下無料。
 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、
 戦傷病手帳又は被爆者健康手帳をお持ちの方とその介護者1名、
 高知県・高知市長寿手帳をお持ちの方は無料です。
 駐車場 なし。ただし近辺に有料駐車場があります。
 附帯設備 ホール、ミュージアムショップ、こどものぶんがく室、
 茶室「慶雲庵」
 貸出施設 企画展示室、ホール、茶室

交通のご案内



- 高知龍馬空港より空港連絡バス(県庁前行)「高知城前」下車、北へ徒歩5分またはJR高知駅「北りまや橋」下車、徒歩20分
- JR高知駅下車、徒歩20分(または連絡バス・路面電車を利用)
- 路面電車「高知城前」下車、北へ徒歩5分
- バス停「高知城前」下車、北へ徒歩5分

高知県立
文学館

〒780-0850
 高知市丸ノ内1丁目1-20
 電話 088-822-0231
 FAX 088-871-7857

高知県立文学館 検索

